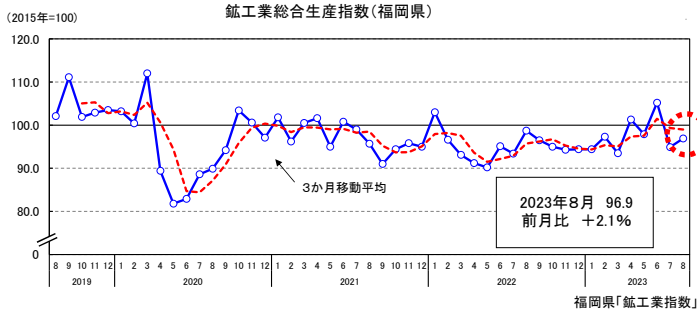


ふくおかの経済

令和5年10月号

生産 持ち直しの動きに足踏みがみられる。

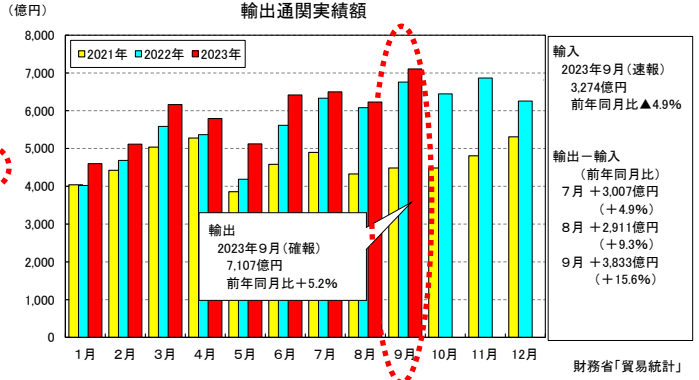
8月の生産指数は汎用・生産用機械工業、食料品・たばこ工業などが上昇したため、2か月ぶりに前月を上回りましたが、3か月移動平均では前月を下回りました。



鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易 輸出額は、前年同月を上回っている。輸入額は、前年同月を下回っている。

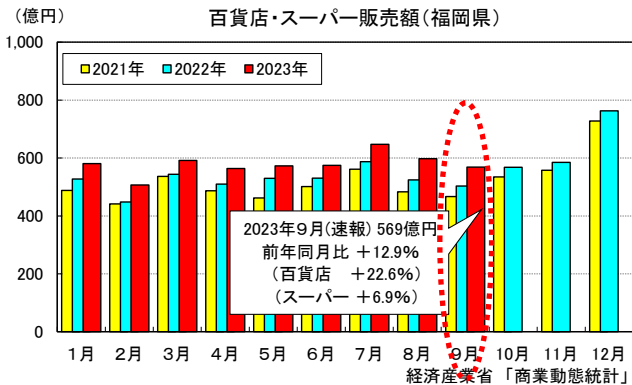
9月の輸出額は、前年同月比+5.2%と前年同月を上回りましたが、輸入額は同▲4.9%と前年同月を下回りました。



財務省「貿易統計」

消費 緩やかに回復している。

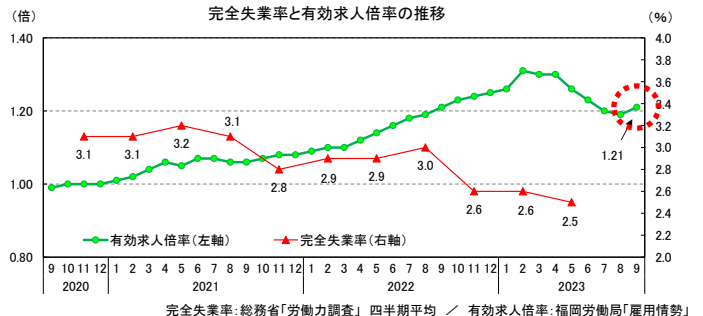
9月の百貨店・スーパー販売額は、24か月連続で前年同月を上回りました。



経済産業省「商業動態統計」

雇用 雇用情勢は、改善している。

9月の有効求人倍率は1.21倍で、前月を0.02ポイント上回りました。

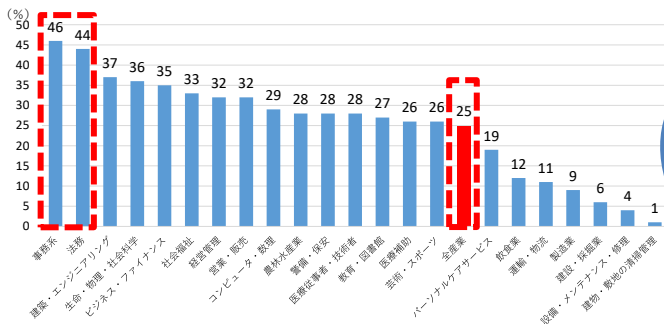


「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

今月のピックアップ リスキリングへの意欲形成に向けて

- 昨今の物価上昇が続く状況下にあって、労働者の可処分所得を向上させるため、「労働生産性の向上」がますます重要になってきています。そのためには、生成AI等の新たなデジタル技術を活用していくことが不可欠であり、技術を使える人材が重要です。
- アメリカにおいては、今後、AIにより全産業の25%、産業別で見ると事務系は46%、法務は44%の業務で自動化されうとの調査もあります(図表1)。社会経済情勢が急速に変化する中、学び直し(リスキリング)を行っていくことが求められていますが、民間の調査結果では、社会人の半数以上に学習意欲がないという結果となっています(図表2)。
- 一方で、学習経験者の直近1年以内の学習目的をみると、「将来のキャリアアップのため」、「収入アップのため」では学習意欲がある方が高くなっています(図表3)。キャリアアップや収入につながるかが、学習意欲の形成に差が出る要因の一つとなっており、社会全体で、学習成果をキャリア形成に生かし、学習意欲を持続させるような仕組みが求められます。

図表1 今後アメリカにおいてAIで自動化されうる業務の割合



出所: Goldman Sachs「Generative AI: hype, or truly transformative?」より筆者訳

図表2 学習意欲と学習経験

	学習意欲あり	学習意欲なし	合計
学習経験あり	33.6	11.5	45.1
学習経験なし	13.5	41.3	54.9
合計	47.1	52.9	100.0

図表2、3出所: ベネッセコーポレーション「社会人の学びに関する意識調査2022」よりデータを一部抜粋し、グラフを加工し作成

図表3 学習の目的

学習の目的(直近1年以内)	学習意欲あり	学習意欲なし
仕事に必要な知識・スキルのため	35.2	32.2
将来のキャリアアップのため	26.2	15.4
収入アップのため	23.8	18.9
副業/副収入を得るため	20.7	9.8
働き方を変えるため	15.5	8.4
転職のため	12.1	8.4